

令和4年度

板野南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 話す・聞く、書く、読む力を高める。(目的意識を持ち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
- 主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	・教頭 元木佳広	・教務主任 三原弘美
		・特別支援教育コーディネーター、研修主任 寒川かおり	・人権教育主事 久米慶季
		北尾教子	

校長

吉野 育也

【小中連携または中高連携における共通の取組】

学んだ力を発揮する機会や必要性を確保する。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算等の基礎的・基本的な知識・技能は定着しつつあり、与えられた課題にもまじめに取り組む児童が多い。 ●文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付け文章を書いたりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・目的に応じて、文章の内容や意図を読み取ることができる。	・漢字・計算の反復練習をし、定期的確認テストをする。 ・タブレットのドリル教材を活用して、知識の定着を図る。 ・国語辞典を効果的に活用する。(3年以上) ・大切な言葉にラインを引かせることで、文章を読み取る手がかりとさせる。		・反復練習や確認テストを行うことで知識・技能が少しずつ定着してきたが、時間が経つと忘れてしまう児童が多い。 ・週末の宿題として、タブレットの課題を出した学年では、児童は意欲的に取り組むことができた。個々の課題が教師側にもよく分かり定着度合いが記録として残るので評価しやすかった。 ・どんな時も自ら国語辞典を引く習慣がついてきた。 ・様々な観点で繰り返しラインを引くことで、文章の読み取りに対する児童の苦手意識が薄れ、文章の内容や意図を読み解く方法を習得してきた。	・時間が経っても、確実に定着できるよう取り組みを今後も考えていきたい。 ・引き続き、ラインを引くことを意識させて取り組ませたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを活用して発表することができる。 ●自分の考えを筋道立てて的確に表現する力が不足している。	・自分の考えを根拠を明らかにして説明できる。 ・対話を通して、改善課題を出し合ったり新しいアイデアを生み出したりできる。	・根拠を示す手立てとして、タブレットやホワイトボードを活用する。 ・スピーチの時間を設け、文の構成を意識させる。		・タブレットやホワイトボードを効果的に活用することで、発表が苦手な児童にとっては、筋道立てた説明をする練習の機会となった。 ・考え方の説明は意識できるようになったが、根拠を明らかにすることは難しい。 ・スピーチでは、児童の発達段階に合わせた内容や形式で全学年が取り組み、構成やテーマを意識したスピーチの方法を習得することができた。	・自分の考えを説明する場面を増やす。 ・発表の仕方(話型)を定着させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の読書や立腰タイムの実施により、基本的な学習習慣や読書習慣が定着してきた。 ●自ら課題や問題点を見つけたり、考えたりしようとする意識が低い。	・学んだことをもとに、次の学習課題を見いだしたり、新しい課題を持つたりできる。	・めあてを子どもと一緒に考えられるように工夫し、課題設定ができるようにする。 ・めあてを意識した振り返りの時間を設け、振り返りの視点を提示する。	・振り返りの書き方シートを児童に持たせ、振り返りの視点を明確にさせる。	・どの学級もめあてを意識した授業は実施できたが、課題の設定方法に改善が必要。 ・全員に持たせた振り返りシートは有効だった。 ・振り返りの習慣は身につけているが、書き方シートの効果的活用に至っていない児童もいる。	・引き続き、めあて・振り返りを意識した授業を展開する。 ・次年度も振り返りシートを個々に持たせ、振り返りの視点を明確にさせ、学習の調整力を身につけさせたい。

令和4年度 学力向上ロードマップ

